

去る7月27日、公開質問状に対して宗務総長から、文書での回答は出来ない、さらには、公開質問状を提出したことに違和感を感じるとの返答がありました。そして、宗議会議員への説明はお盆明けに開催される宗政調査会でしたいとのことでした。

我々が、「公開」と冠したのは、事は議会無視という問題ではありますが、これは、議会や議員だけの問題ではなく、大谷派議会の意義を如何に見るのかという宗門全体の問題として、総長のこの度の対応を質したいということがあったからであります。ところが、総長は宗政調査会という、いわば議員だけの内部委員会で説明したいというわけです。つまり、宗門全体の問題を議員の問題として矮小化しようとしているのか、事の本質を見誤っておられるのかの何れかでありましょう。議会を無視した減額決定の根拠とプロセスの説明責任を果たそうとされないだけでなく、公開質問状が提出されたことに違和感を感じられるという、あたかも疑義は許さないと言わんばかりの対応に大きな危惧を感じます。これでは、広く宗門人が関心をよせるご依頼に対して、不信を抱かざるを得ません。果たして、我々のリーダーとして相応しいのかどうか大いに疑問であり、残念な気持ちでいっぱいです。

この問題は私たち「同朋社会をめざす会」だけではなく、宗議会正副議長や与党議員からも疑問の声が上がっていることを申し添えます。